



ミナミヌマエビ (*Neocaridina denticulata*)

ヌマエビ科

体長はメスが3cmくらいで、オスよりは1cmほど大きいです。メスは、歳をとると茶色や濃い緑色などの特徴的な色になります。雑食性で、生物の死骸や藻類、デトリタスなどを食べますが、生きた小動物を襲うことはありません。

2003年に兵庫県で中国から来たミナミヌマエビが見つかり、瀬戸内側の河川やため池にはそれらが増えていることが分かってきました。

写真は、土師地区の新池で撮影しました。



アオサギ (*Ardea cinerea*)

サギ科

体長 90cmを越える日本では最大のサギです。翼は青みがかった灰色で風切羽は黒、体は白っぽい灰色をしています。水辺の浅瀬を歩きながら魚やカエルなどを捕えます。時には小型の哺乳類や鳥類のひなを食べることもあります。日本で子育てをする留鳥で、30年ほど前から増えはじめ、よく見られるようになりました。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



ホシハジロ (*Aythya ferina*)

カモ科

ヨーロッパ北部からシベリアのバイカル湖周辺にかけて住むカモで、冬に日本にやって来ます。雑食性で、水中の植物や種子、魚、エビ、昆虫、貝などを食べます。

雌は頭から胸にかけて褐色ですが、雄は頭から首にかけて赤茶色で胸は黒色です。ホシハジロの名前は、体の白い部分にある多数の黒い小さな模様を星に見立てたのではないかとされています。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



メス



オス



ハシビロガモ (*Anas clypeata*) カモ科

冬に北米やユーラシア大陸の北部からやって来ます。スコップのような幅の広いくちばしをしています。英名はshovelerです。

雄と雌が向かい合ってクルクルと回転し、足で水をかき混ぜて渦を作ります。そうして、水面近くに浮き上がってきたプランクトンなどを幅の広いくちばしで吸い込み、漉し取って食べます。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



ホラシノブ (*Sphenomeris chinensis*)

ホングウシダ科

様々な場所に見られる植物で、細く分かれた枝に丸っこい葉がつくのが特徴です。

葉は、やや厚みがあり、表面は、滑らかで艶はあまりありません。黄緑っぽい色が、普通ですが、赤みを帯びることもあり、冬には、綺麗に紅葉するものも見られます。

写真は、土師地区の新池で冬に撮影しました。